

韓国釜山に進出した
キーパーズのオフィス
と広告塔を兼ねたト
ラック



に対しては、周囲の関心も薄いのだという。

また、女性の社会進出も社会に大きな変化をもたらしたと吉田社長は指摘する。「結婚は男性の不便と女性の不安によって成り立っている側面が大きい。ところが、女性の社会進出に伴って、不安は少なくなっていく。一方で、結婚することによって女性は不満が増えた。今や女性が結婚しなくてはならない必然性は薄らいでしまっている」。結婚に背を向け、独りで生きることを選択した女性たちは、自らの行く末を考え、遺品整理の予約を行っているという。

このように吉田社長が目の当たりにしてきた社会環境の変化は、同社の業績を順調に発展させてきた。創業の翌年2003年には東京支店と大阪支店を立て続けに開設、その一年後の2004年には福岡支店をオープンさせた。最近では、富山県や北海道への進出も果たした。そして、日本と同様の社会変化がアジアにも伝播すると考えた吉田社長は、今年4月韓国釜山に現地法人を開設した。

韓国に現地法人を設立

きっかけは一昨年(2008)の11月、日本で独居老人が増えている実情や遺品整理のサービスの隆盛を報じたNHKのテレビ番組だった。番組を見た金石中氏(現・



東国大学校生死儀礼学科の李教授(右)と吉田社長

キーパーズコリア社長)は、「このような時代がいずれ韓国にもやってくる」と確信したという。金氏は、すぐさま吉田社長にアポイントを取り日本に赴いた。そこで吉田社長と出会い意気投合したという。しかし、文化も異なり、言葉の障壁もある韓国で簡単にビジネスをスタートさせるわけにはいかない。韓国での事業の可能性の見極めや、金氏の本気度を計るために1年半の時間が必要であった。そして、満を持して釜山での事業がスタートを切った。

6月までの実績は1件というが、問い合わせは徐々に増えているという。「まずは、遺品整理とは何であるかということを知ってもらう必要はない」と吉田社長は語る。そこで、韓国の葬祭業界との接点を持ち、まずは韓国の葬儀社や冠婚葬祭互助会にキーパーズのサービスを知ってもらうことから開始した。

4月にはテジョン市にある大田保健大学の葬礼指導学科で日本の社会環境の変化や、それに伴って生



吉田社長とキーパーズコリアのメンバー